



バリューチェーンを通じた顧客価値の最大化

ビッグデータの活用とステークホルダーとの協働で
「最高の品質と技術」を実現する

重要なステークホルダー

お客様、従業員、協力会社
(購買・加工・物流・施工)、
工場および建築現場周辺
にお住まいの方

背景

住宅に求められる価値の実現には、ステークホルダーとの連携が不可欠

技術の著しい進化や社会要請の急激な変化によって、住まいに求められる価値の内容はますます多様性を増しています。将来のビジネス環境の変化まで視野に入れると、お客様に最適な価値を提供するための企業のアプローチも、これまでとは大きく変化しつつあります。

例えば、さまざまな最先端の技術の中からどのようなものが生活者にとって最適なのかを、顕在的・潜在的ニーズから読み解いていくためには、蓄積されたビッグデータの活用や先進の設備メーカーとの共同検証も欠かせません。

また、人口減少の中で熟練技能者の育成や建設作業のディーセントワーク化、さらには、環境や社会的要請に応じた良質な材料の安定的な調達も、企業が単独で実現できるものではなく、バリューチェーンの上下流との協働や戦略的な働きかけがますます重要性を増しています。そして、SDGsにおいては、「イノベーション」(目標9)、「生産・消費」(目標12)、「パートナーシップ」(目標17)を念頭に置いた取り組みが求められていると認識しています。

アプローチ

目指す姿

徹底したお客様目線で集積したニーズに応え、他社が追従できない性能・品質を実現

住宅に対する高い要求を理解し、お客様に対して本当に満足いただける品質とサービスを提供するためには、バリューチェーンを通じて顧客価値を最大化するための、トータルな事業シナリオづくりが求められます。そこでポイントとなるのは、お客様のニーズと社会変化を先取り

するために多彩なチャンネルで蓄積した業界屈指のビッグデータです。これを生産・施工を通じてグループ全体で活用し、さらには密度の高いサプライチェーンマネジメントで共有することで、他社が追従できない性能・品質を実現し、トレーサビリティを確保します。

① 住まいづくりの前に

地域密着型事業の特性から、住まいづくりが社会に開かれたものになるように双方向の情報交流と生活ニーズの変化の把握に努めています。

研究開発

お客様の貴重な意見や、社会の新たなニーズを反映して、ハード・ソフト両面からの研究開発を推進しています。

展示場・見学会など

地域特性を生かした展示場や、オーナー様のご協力で開催している建築現場見学会、体験型施設等の来場者などの意見を収集しています。

② 住まいができるまで

工業化住宅のメリットを生かして構造安全性を確保しつつ、設計の自由度を高めてお客様のニーズに応じた住宅を、自社グループによる高い精度の責任施工体制で実現しています。

サプライチェーン

住宅は、膨大な部材を使用するため、質の高い優良なサプライヤーとの協働や連携を重視しています。

生産

高品質・高精度のオリジナル部材による「邸別生産」を、自社工場で実現しています。

施工

施工システム、人材育成、積水ハウスグループの最大の強みでもある「積水ハウス会」との連携などを通じて高い施工精度を安定的に確保しています。

③ いつまでも安心快適に

アフターサポートの充実によって、住宅の長寿命化を実現します。

CSV戦略④

P.41-46 参照

活動方針

**1 ビッグデータを生かした最適技術で
安全・安心・健康・快適を実現**

ハード・ソフト両面からの研究開発を推進し、半世紀以上にわたって積み上げてきた「最高の品質と技術」により、安全・安心・健康・快適を実現。累積建築戸数238万戸、オーナー様限定の会員制サイト「Netオーナーズクラブ」会員31万人、「納得工房」来場者91万人、「住ムフムラボ」来場者63万人など、たくさんのお会いから得た無形資産としての生活者のビッグデータを活用し、多彩なニーズに応えていきます。

**2 資材調達における
きめ細かいサプライチェーンマネジメント**

数万点の部材を利用する住宅において、当社が重視する価値を理解し、製品化に配慮するサプライヤーとの協働は、多様化するニーズに対応するための重要な要素です。また、ESG投資への関心が高まる中、CSR調達など、当社・サプライヤー双方にとっての長期メリット創出を目指し、連携関係を強化していきます。

**3 生産・物流における品質および
業務効率の向上**

主要構造部材は、厳格な品質管理体制のもと、すべて自社の工場で「邸別生産」しています。多品種・小ロットの邸別生産と合理性を両立させつつ、常に性能・品質が安定した高精度な部材を供給するため、生産ラインの自動化やロボット技術の活用を推進しています。

**4 施工力の強化と工事力の最大活用
に向けた取り組み**

自社工場で生産した高い性能・品質を有する部材を、現場で高い精度で施工していく上で「積水ハウス会(グループ会社や協力工事店による任意組織)」との強い連携と、9千人超の施工技能者は、大切な存在であり、大きな強みです。



安全・安心・快適な住宅を積水ハウス会とともに

活動が社会に及ぼす影響

「住まい手の生命と財産を守る」という使命を果たすため、ハード・ソフト両面から研究開発を推進し、半世紀以上かけて積み上げてきた「最高の品質と技術」が累積建築戸数238万戸の実績を生み出すなど、住まいづくりを常にリードしてきました。

住宅技術はもちろん、CSR調達、長期保証を実現する

高品質な住宅を生産する技術、施工技能者の業務負担を低減しながら高品質を維持する施工技術など、バリューチェーン全体で「最高の品質と技術」を創出しているからこそ、お客様の支持を得ることができます。各工程でバリューチェーンとの協働を図り、良質な住宅の普及に取り組むことで、標準的な住宅の品質向上を先導します。

リスクマネジメント

**リスク① 技術の進化・多様化に対するキャッチアップ
と選択の困難化**

対応① 業界のリーディングカンパニーとして、官民の先端技術の導入検証に対する参加機会や、メーカーの依頼による共同研究の機会が確保されているために、それらを自社で蓄積したビッグデータに照らしてお客様の現実的なニーズへの反映や、早期の経営判断が可能です。

**リスク② 建設業における労働人口減少と熟練技能者
不足による、高品質の維持に対する懸念**

対応② 生産・物流・施工の各工程において、自動化をはじめとする省力化・効率化を進めています。同時に、タブレットPCなどICTを用いた施工管理システムの積極的な導入による業務効率化を進めた上で、自社での若年労働者育成や福利厚生充実による定着率向上も進めています。

**リスク③ サプライチェーンマネジメントにおける
持続可能な部材調達に対する
社会的要請の高まり**

対応③ 従来の品質中心のサプライチェーンマネジメントにとどまらず、環境問題、さらには人権や労働等の社会問題への対応も含めた広範なサプライチェーンマネジメントへの対応を進めています。

当社では、定例の「方針説明会」でのCSR調達方針の共有や取引先評価におけるCSR評価の実施を通じて、サプライヤーとの密接な連携を進めており、活動方針の共有はリスク回避のみならず、サプライヤーの強み・弱みの把握や信頼関係の醸成・強化につながっています。

進捗状況

1 ビッグデータを生かした最適技術で安全・安心・健康・快適を実現

活動報告

邸情報の一元化による全社最適と業務の再構築

「多品種・少量生産」である住宅部材を、高品質かつ合理的に供給するため、設計・仕様の整理や削減、邸情報や部材情報の一元化を実現すべく、ビッグデータ活用をベースとしたシステムを構築しました。

本システムにより、「設計情報」「部材情報」のみならず、「お客様情報」や「メンテナンス等の履歴情報」などを含めた、邸情報の一元化を実現。工期短縮や業務コスト削減などにつなげるとともに、主たる業務処理をタブレットPCやスマートフォンなどで行えるようにすることで、各職種での生産性の向上につながっています。また、これによってお客様へのサービスの迅速化が図られ、関係者の情報が密になり、精度の高い品質やサービスを提供しています。

各工程における邸情報の活用例

営業・設計



業界で初めて邸別自由設計のオリジナルプランにて短時間でVR(バーチャルリアリティ)体験が可能に

生産・輸送



ロボットによる生産、効率的輸送ルートの実算など大幅な省力化と、設計段階からのIT情報を共有し、納期を短縮

施工



工事監理者、施工者などに配布したタブレットPCを通じて邸情報をいち早く共有し、正確な施工や工期管理を実現

引き渡し後



メンテナンス、リフォーム、災害時の対応などで邸情報を活用。また、修理履歴を正確に保存できストック価値が向上

邸情報システムの構築

多様化するお客様ニーズや各種法改正

新規部材の開発や仕様変更などにより対応

各部門の独立した業務システムが情報分断や二重作業を生む

業務や組織の肥大化

〈営業部門〉
設計業務複雑化に伴う業務負荷増大

〈アフターサービス部門〉
棟数が増え、仕様確認が複雑で、対応に時間がかかる

〈生産部門〉
高品質の追求、部材情報管理・メンテナンスの工数増大

「邸情報の一元化」による業務フロー再構築

お客様ニーズに応える新技術・新商品を開発

積水ハウスが1997年に発売した、工業化住宅として世界初の重量鉄骨梁勝ちラーメン構造の「βシステム構法」は、柱の位置を自由に移動できるため、各階の間取りや窓の位置などの自由度が高いという特長があります。2017年には、さらに設計自由度や空間提案力を高め、戸建住宅、

賃貸住宅、店舗・事務所併用住宅、高齢者住宅に加え、保育園、病院、ホテル、公共施設などの非住宅にも対応できる新構法「フレキシブルβシステム」を開発し、新商品を発売しました。

また、軽量鉄骨造住宅においても、オリジナル新構法



新構法の「フレキシブルβシステム」により3台並列駐車ビルトインガレージが可能に



新構法の「ダイナミックフレーム・システム」により大空間・大開口を実現

「ダイナミックフレーム・システム」を開発・導入し、これまでにない大開口や縦横に広がる大空間を実現しました。開口部の断熱性能が業界最高水準の「超高断熱アルミ樹脂複合サッシ」を標準採用することで、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)に対応。開口部を大きくしたいというお客様ニーズに応えながらZEHも実現する提案を行っています。

多様なステークホルダーとの共創によるハード・ソフト両分野の研究開発を推進

住まいの安全性・快適性を追求し、品質の向上を図ってお客様ニーズに応えていくことは住宅メーカーの使命です。

当社は1990年に「総合住宅研究所」を開設し、住まいづくりに関するハード・ソフト両分野の研究開発を推進してきました。住宅の基本性能の検証や評価をはじめ、健康で快適な生活を目指したさまざまな研究開発や、暮らしと住まいのあり方に関する調査研究などに取り組んできました。自社内での検証や研究は迅速な課題発見と解決につながり、重量鉄骨造「βシステム」や制震システム「シーカス」、空気環境配慮仕様「エアキス」など、当社独自の強みとなる技術を生み出しています。

「エアキス」については、2017年4月に国立大学法人千葉大学と共同で、千葉大学予防医学センター内に「積水

ハウス 健やか住環境創造のためのシックハウス症候群対策研究部門」を設立。千葉大学柏の葉キャンパス内に実証実験住宅2棟を建設し、滞在評価実験を開始しており、医学的観点での取り組みの深化を目指しています。

また、総合住宅研究所内に「納得工房」を設置し、生活者とつくり手が対話しながら住まいのあり方を考える場として、年間約3万人の来場者と双方向の情報受発信を行っています。

さらに、大阪駅前のグランフロント大阪内に開設した「住ムフムラボ」では、住まいや暮らしに関する情報受発信拠点・研究開発拠点として、さまざまなステークホルダーとオープンイノベーションによる共創研究を推進しています。



構造実験場での耐震性を検証する実大振動台実験



空気環境配慮仕様「エアキス」につなげたアレルギー原因物質などの調査



千葉大学に建設した実験住宅。滞在評価を通してシックハウス症候群を防ぐ環境や、心理的な健康増進要素を研究



「スローリビング」の居心地を検証する天空実験室



人工気象室での断熱性と快適性の検証実験



「住ムフムラボ」では一般生活者や企業との共創研究を実施



主要指標の実績(KPI)

指標	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
制震システム「シーカス」搭載率(鉄骨2階建て戸建住宅)	%	75	87	89	94	96	96
空気環境配慮仕様「エアキス」搭載率(鉄骨戸建住宅)	%	76	78	80	85	87	88

評価

「シーカス」「エアキス」搭載率は高水準を維持しています。

ITを活用した「邸情報の一元化」の実現により、生産性や業務効率、お客様へのサービスの向上を果たすことができました。また、ハード・ソフト両面での研究開発の推進により、設計自由度や空間提案力をさらに高めた新構法を開発し、新商品を発売。多用途の建築ニーズへの対応の幅が広がりました。

今後の取り組み

「シーカス」「エアキス」は引き続き当社独自の強みとしてお客様に積極的に提案していきます。

各工程でのITの活用方法をさらに進化させるとともに、お客様ニーズや時代の流れへの感度を高めて、ハード・ソフト両分野での研究開発を進めます。同時にステークホルダーと対話しながら業界をリードする提案を続け、住まい手の安全・安心・健康・快適をさらに向上させていきます。

2 資材調達におけるきめ細かいサプライチェーンマネジメント

活動報告

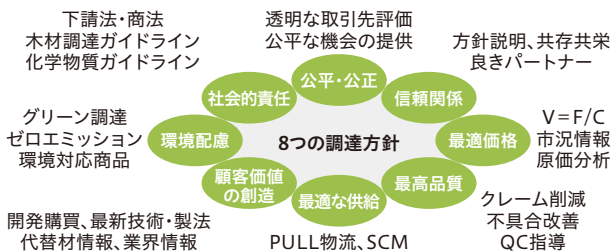
大量かつ多数の種類の資材を使用し、すそ野の広い住宅産業は、サプライチェーンに対して少なからぬ影響力を持っています。特に、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」にも見られるように、企業の環境・社会課題の解決に対して及ぼし得る影響を、サプライチェーンまで含めていかに最大化できるかは、「責任」を超えて長期的な企業価値を拡大するためのよりポジティブな「戦略」と位置付けています。同時に、サプライチェーンを育て、共存するための取り組みも重要な柱と考えて取り組みを進めています。

調達方針

当社では「企業理念」「企業行動指針」に基づく調達活動を遂行するために、2007年から「最高品質」「最適価格」「最適供給」「環境配慮」を中心とした「8つの調達方針」を掲げ、遵守・推進しています。

また、持続可能性評価が細部にわたる「木材調達」「化学物質管理」については、これに加えて独自のガイドラインを設け、該当サプライヤー対象の進捗管理を行っています。

8つの調達方針



「取引先評価」の実施と改善

公平・公正な取引継続に向けて、調達方針に基づく「取引先評価」を実施し、改善に役立つように各社に結果を開示しています。

同時に、安定した企業体質と品質管理があって初めて高いレベルでの調達方針の実践が成り立つと考え、主要取引先には「工場訪問」と「QC (品質管理体制) 診断」を継続的に実施しています。

また、調達方針との整合性を図り、相互理解を深めるために、主要な取引先約150社参加のもと、毎年「方針説明会」を開催しています。ここでは最新の経営計画や調達方針、商品戦略などを説明し、取引先の活動指針となる情報を共有し、優良企業に対しては顕彰を行うとともに、良い取り組み事例については発表をしてもらい、刺激し合える場を提供しています。



方針説明会

CSR調達の推進

当社では、2015年度からは「8つの調達方針」に沿った「CSR調達基準」を制定して活動しています。2017年度からは「取引先評価」に「CSR評価」項目を導入し、社会的責任の認識を高め、持続可能な発展を促しています。なお、2017年度の「取引先評価」を行った主要サプライヤー123社の取引額は購買額全体の74%です。

「CSR評価」については、各社にISO26000※の7つの中核主題に対して28の課題に対する取り組みを5つ(①法規制遵守 ②責任部署・体制 ③未然防止のルール手順 ④社内啓発の内容 ⑤実態把握)の視点で事前に自社評価してもらい、結果を点数化・評価しています。

また、評価結果から判明した注視すべきサプライヤーに対しては、訪問でのモニタリングを実施し、その実態を確認しています。2017年度は4社に実施しました。

今後は、CSR委員会傘下のサプライヤー分科会を開催し、さらにCSR調達の取り組みを推進していく予定です。

※ ISO (国際標準化機構) が2010年に発行した、組織の社会的責任に関する国際規格

CSR調達基準

人権・労働	人権尊重、差別撤廃、児童労働の禁止、強制労働の禁止、賃金、労働時間、社員との対話・協議、安全・健康な労働環境、人材育成
コンプライアンス	法令の遵守、競争法の遵守、腐敗防止、機密情報の管理・保護、輸出入取引管理、知的財産の保護
社会貢献	地域・コミュニティへの貢献
環境	環境マネジメント、温室効果ガスの排出削減、化学物質管理、大気・水・土壌等の環境汚染防止、省資源・廃棄物削減、「フェアウッド」の利用促進
リスクマネジメント	リスク管理の仕組み、事業継続計画の策定

3 生産・物流における品質および業務効率の向上

活動報告

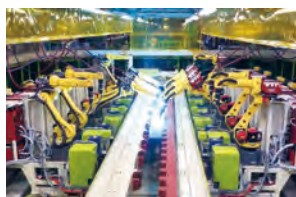
「邸別自由設計」を旨とする積水ハウスでは、部材も一邸ごとにカスタムメイドする「邸別生産」が基本です。多品種・小ロットの生産と合理性を両立させつつ、常に性能・品質が安定した高精度な部材を供給するため、生産ラインの自動化やロボット技術の導入を推進しています。

また、従業員の労働災害や健康被害を未然に防止するための安全衛生管理に努めるとともに、快適な職場環境づくりに努め、作業の円滑化と生産性の向上を図っています。

主要構造材の生産自動化推進

全国5工場では、柱や梁をはじめとする主要構造材や外壁材などのオリジナル部材を製造しています。各工場では、継続的な改善活動、効果的な設備投資により、生産効率と品質のさらなる向上に努めています。

2017年は、山口工場で重量鉄骨造3・4階建て住宅の構法である「βシステム」のさらなる自動化と増強を図りました。



ロボット化された新製造ライン

また、静岡工場にはβシステムの新構法「フレキシブルβシステム」を実現するための、従来比2.5倍の強度を有する柱「WHコラム」の製造ラインを導入しました。

生産品質管理体制の整備

全生産工程での品質管理徹底のため、生産ラインごとに専任担当者を配置し、原材料の納入検査、部材の抜き取り

検査や品質検査、工場技術者の定期的な技能試験などを実施しています。

高い技能を持った従業員による品質管理とともに、ロボット技術などの最新技術を活用した高精度検査も実施し、不良品の流出防止や生産効率・品質の向上を実現しています。

オリジナル外壁材の自社生産

軽量鉄骨2階建て住宅の最高級商品「イズ・シリーズ」の「ダインコンクリート」、および、木造住宅「シャーウッド」の陶版外壁「ベルバーン」は、当社オリジナルの外壁材です。優れた耐水性・耐候性・耐久性とデザインの美しさを兼ね備えている点が特長です。

自社工場で厳しい品質管理のもと、受注した住宅ごとに「邸別生産」しており、製造ラインの自動化や増強を推進しています。

労働環境の整備

各工場では、業務遂行中に発生するおそれのある災害、または、健康障害を未然に防止するために必要な安全衛生管理を行い、従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境を形成し、作業遂行の円滑化と生産性の向上に努めています。安全衛生の維持・発展のため、月1回、安全衛生委員会を開催するとともに、四半期に一度、全工場で「生産部門 安全衛生推進会議」を開催して、各工場の現状や改善内容、将来展望などを共有しています。

主要指標の実績(KPI)

指標	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	定義
損益分岐点出荷面積	%	100.0	100.9	102.4	98.5	93.1	96.3	2012年度を100とした指数
施工現場からの苦情異常件数推移	%	100.0	98.0	75.6	56.7	60.7	47.5	2012年度を100とした指数

評価

生産ラインの整備・増強などにより、複数の工場での部材生産が可能となり、自然災害などにより、いずれかの工場が被災した際にも生産を継続できる体制が整いました。また、ロボット技術の導入により自動化を推進する工程と、従業員の技能による工程の区別がより明確となり、品質や業務効率の向上、労働環境の整備を進めることができました。

今後の取り組み

施工現場の作業効率の向上や省力化に寄与するため、引き続き、工場内での部材のプレ加工や組み立て、現場に納品する部材の形態改善に努めます。

また、快適な職場環境づくりによる作業性の向上が生産性の向上につながるという認識のもと、委託業者を含めて、生産部門での働き方改革にも注力します。

4 施工力の強化と工事力の最大活用に向けた取り組み

活動報告

日本の建設業就業者は、3人に1人が55歳以上であり、高齢化が進行しています。建設業就業者の減少は必至で、新規入職者の確保・育成と定着率向上が業界全体の課題となっています。

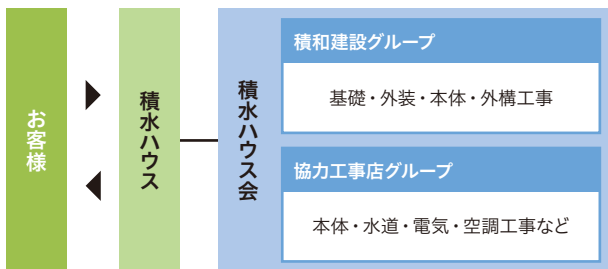
積水ハウスグループでは、継続的に安定した施工力を確保して品質向上・お客様満足度向上を実現するために、施工技術の深化を図るとともに、各種制度を活用しながら協力工事店との組織力を強化し、既存の工事力を最大限に生かすための取り組みを推進しています。

積和建设グループと協力工事店グループによる任意組織「積水ハウス会」との協働

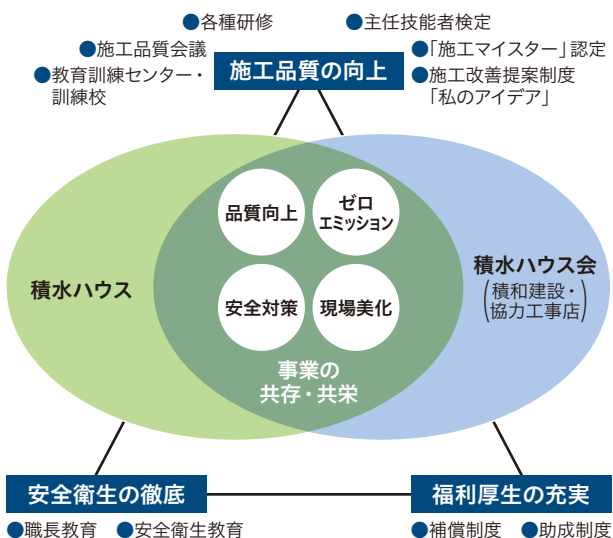
積水ハウスグループの最大の強みが、創業以来「運命協同体」として強いきずなで結ばれ、共存共栄を図ってきた「積水ハウス会」の存在です。

「積水ハウス会」は、施工に携わるグループ会社や協力工事店によって結成されている任意組織です。それぞれの地域で積水ハウスの各事業所と連携し、施工品質の向上はもとより、お客様や近隣の皆様への対応、安全対策、

積水ハウスグループの責任施工体制



お客様満足度向上を実現する「運命協同体」としての取り組み



現場美化、人材の育成、労働環境の整備など、さまざまな取り組みを進めています。さらに各施工現場や各協力工事店が掲げている課題を共有して解決策を検討する情報交換の場や、研修・勉強の場を設け、業務改善や技術向上に努めています。

地震や水害などの自然災害発生時における復旧・復興工事においても、被災地で工事要員の不足による住宅供給の遅れが問題になる中、全国組織の強みを生かして、各地の「積水ハウス会」から多数の技能者を被災地に派遣。継続的に安定した施工力を確保し、最大限に活用することで増加する建設需要に応えています。

これからも「積水ハウス会」とともに、お客様満足度向上に全力を尽くし、積水ハウスのブランド価値向上に取り組むことで、「運命協同体」として共存共栄を目指します。

住宅の長寿命化を実現する施工技術開発を推進

積水ハウスでは住宅の基礎コンクリートの長寿命化技術の一つとして、すべての戸建住宅に対応できる「基礎高耐久化シート工法」を開発。粘着剤付きのシートを専用の施工治具で建物床下側基礎コンクリートの表面に貼り付け、長期間にわたり基礎を被覆する工法です。

基礎表面をシートで覆うことで、コンクリートの劣化要因である二酸化炭素の侵入を防ぎ、さらに、コンクリート中の水分を閉じ込めることで、乾燥収縮によるひび割れの低減、長期間にわたる強度の維持を実現することができます。2015年に開発し、2017年度の社長表彰(第27回「表彰要項」に基づく表彰※)で技術功労賞・金賞を受賞しました。建物の基盤となる「基礎」をより高耐久化させることで、お客様に長く安全・安心に暮らしていただける住まいを提供します。

※ お客様満足度向上につながる業務改善や、業務上有益な技術開発、また、業務にかかわる創造的・独創的研究開発で社内外に大きな影響を与えたものを表彰する社内制度



専用治具による施工



仕上がり状況

次代を担う若い技能者への技術の継承など 人材育成に注力

教育訓練センター・訓練校を運営

積水ハウスは、第一線で活躍できる人材を育成することを目的に、厚生労働省認定職業能力開発校を直接運営しています。東日本（茨城県古河市）、中日本（滋賀県栗東市）、西日本（山口県山口市）の3カ所に設置し、積和建設各社や協力工事店に採用された技能者を対象に、技術・技能をはじめ、社会人として必要な教養やマナーを身につける訓練を行っています。

積水ハウスの施工に必要な知識と技能だけでなく、お客様の満足を実現するために大切な積水ハウスの企業理念を学ぶところが、他の学校とは異なる点です。修了生は全国各地で施工技能者や施工管理者として活躍。若い力が現場に活力を与え、工事力の強化に貢献しています。修了後も実務経験やレベルに応じて、継続して技術・技能を向上させるために各種研修を受講することができます。

施工マイスター制度、 積水ハウスリフォームマイスター制度

積水ハウスの施工現場における優れた技能者を顕彰する制度として「施工マイスター制度」を設けています。2017年度は312人を認定。制度運用を開始した2010年度以降の認定者は延べ1933人に上ります。「施工マイスター」には認定証やステッカーが授与され、奨励金も支給されます。施工品質向上への貢献、高度な技能の伝承など、他の模範となり活躍することで、すべての施工技能者のモチベーション向上、協力工事店との「運命協同体」意識の強化に資することを期待しています。

また、積水ハウスのオーナー様のリフォーム事業を担う積水ハウスリフォーム3社では「積水ハウスリフォームマイスター制度」を設けています。2008年に創設した本制度は、リフォーム工事に従事する協力工事店の優秀な技能者を認定・登録することにより、リフォーム施工現場の改善と施工品質の向上を推進し、オーナー様の信頼と満足の向上を図ることを目的としています。2017年度は新たに29人が認定され、累計368人が全国で活躍しています。今後はマイスター間で有意義な情報交換ができる取り組みを充実させていきます。

施工改善提案制度「私のアイデア」

施工技能者による品質向上やお客様満足度向上のための創意工夫を推奨し、支援する制度が施工改善提案制度「私のアイデア」です。年に一度、当社の施工に携わる全国の技能者から実際に行っている施工方法の改善などのアイデアを募集。各地での審査を経て、全国審査会（最終審査）によって等級を決め、表彰状および報奨金を授与しています。

第30回となる2017年は、「最優秀賞」を「第30回記念大賞」として実施し、全国から1268件の提案が寄せられました。

本制度を通じて、累計5万1212件の提案があり、たくさんの新しい工具・機材や工法が生まれました。商品化されたものや特許を取得したものもあります。

受賞提案は、当社の施工現場で働く方向けに定期的に発行している施工ニュース「つちおと」などで紹介。また、社内ホームページに説明用動画（実演により提案の内容を紹介）を掲載することで、優秀なアイデアの現場への周知、全国への水平展開を図っています。

主要指標の実績(KPI)

指標	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
施工従事者（基礎・建方・大工）	人	—	10,518	10,393	9,843	9,351
教育訓練センター・訓練校修了者（累計）	人	2,294	2,385	2,480	2,568	2,638
セキスイハウス主任技能者検定合格者（累計）	人	14,458	14,607	14,808	15,012	15,214
施工マイスター認定者	人	312	318	305	325	312

評価

完全子会社の積和建設18社と協力工事店による責任施工体制で、確かな施工品質が確保できています。長い年月をかけて構築してきた「積水ハウス会」との共存共栄が当社の強みとなり、施工力の確保が難しい時節ながら、安定した施工力で積極的な事業活動を支えてきています。

今後の取り組み

「積水ハウス会」との連携をさらに強化していきます。また、各事業所・各部門と協力して、工事の平準化、施工生産性の向上、先進技術導入による工事力の最大化を進めます。また、新規技能工の確保・定着のために教育訓練の充実と働き方改革に取り組んでいきます。